

# UCR-JIU Pharmacy Internship Program 2014 (UCR 2014)

## 充実の日々 これからの自分探し



本日は、UCR2014に参加した3年生と4年生にお話を伺いました。

### UCR2014に参加して3ヶ月が過ぎましたが、最近の学生生活はいかがですか？

(瀬本) 最近は……ただただ慌ただしく毎日が過ぎている感じです。中間テストがあったり、実習があったり……こんな毎日でいいのかな？って、ちょっと思っていたところです。

(桑垣) 確かに実習が入ってくると、ホント1日があっという間に終わっちゃう感じ。予習して、実習して、レポートまとめて……モラトリアムってわけではないけど、ルーティーン化された毎日を繰り返しているような気がするよ。

(吉村) 私は今年、共用試験があるんだけど、なんか「焦り」を感じちゃって……。周りを見てると、つい不安を感じちゃうんだ。

(瀬本) 周りって言っても、いろんな周りがありますよね(笑) そんなこと、気にする必要ないんじゃないですか？

(吉村) そうなんだけど……でも、悩むからこそ、「何かアクション起こさなきゃ」って気落ちになるし、プラス思考に考えられているからいいんだけどね。UCRで感じた「毎日楽しく！」ってことを実践しなきゃって、いつも思ってるんだ。

(桑垣) そうなんですよ！……毎日楽しく、自分らしく！……私も以前よりは積極的に人前になるようになったって自覚してるんですよ。

(森) 僕はみんなも知ってるのとおり、社会人経験があって、改めて薬学部に入りなおしているけど……。やっぱり「学生って自分の時間に余裕があって、自分と向き合える時間があるっていいな」って感じてるんだ。目の前のことに真摯に向き合って、1つずつ確実に積み上げていく日々……

(吉村) やっぱり、森さんは大人だなあ～

(瀬本) そう言えば、最近 IPE (多職種連携教育：福祉総合学部・看護学部との合同授業) が始まったでしょ？ 他学部の学生との授業はある意味刺激的だね。でもディスカッションが盛り上がりすぎてまともじゃなくなるときも……。もうちょっと「仕切る力」って言うのか、マネジメントするスキルを身に付けなきゃって思ってるんだ。

(桑垣) なんか、みんなが思い思いのことしゃべって……それはそれでいいんだけど、まとめる力って言うのも大事なんだよ

(吉村) アメリカでは、すごく「個性」が大事になって気付けられたから、そういうグループワークの時は「主張」することはすごく大事なんだけど、結局チームで何か仕事をする時って、最後は「まとめる」ことがすごく重要なんだよ。私はいつも、「客観性」を大事にして、グループワークをしようって考えているんだ。

(森) そうだね。アメリカでは個性の大事さに気付かされたよね。ホストファミリーにはいつも「君は、どう思うんだ？」とか「君だったらどうするの？」

って感じて「自分の意志とか意見」を聞かれることが多かったよね。「自分」をしっかり持っていないと、コミュニケーションすらすら取れないような感じがしたなあ。きっと、多民族国家であるアメリカでは自己主張しないと個人が確立できないような文化的背景もあるんじゃないのかな？ でも、そういう背景というのは、組織とか集団があって初めて確立するものだし、「集団の客観」は「個」があってはじめて形成されるものだから、「個」と「集団」のバランスっていいのか、吉村さんが言う「客観」ってのはすごく難しいよね。結局は客観って「空気を読む」って感じになるのかな？ もちろん絶対的な客観もあるんだろうけど……

(桑垣) 私は、研修中「自分らしさ全開！」を目指して毎日過ごしていたんだ。日本に戻ってきてからも、以前よりは人前に出ていけるようになったと自覚はしているんだけど……もっと「自分らしさ」を出したいなって……。みんなの言う「客観」ってのが、「周りの目を気にする自分」になっちゃってることがあるんですよ……

(瀬本) うん。なんか「みんなに合わせなきゃ」って気持ちはすごくわかるな。自己主張することと、自分勝手とは違うんだろうけど……、なんか、「自分勝手」みたいに思われたくないし、他者が見る自分っていうのをすごく意識しちゃうってことなのかもしれない。これって、他者の意見に対する「受け入れの準備」ができていないってことなのかな？ 他者の意見に対する考え方をもっとオープンにしなきゃいけないんだなって最近すごく感じてる。

(吉村) 「空気を読む」……私にとって一番苦手なことだなあ～(笑) でも、「自分らしく」はとても大事だと思うから、自分の個性って何かキャラクターがいろいろな人に受け入れられるように……。時には厳しい言動をとっても、みんなとうまくコミュニケーションができるように、もうちょっと自分磨きをがんばらなきゃなって！

### UCR2014への参加は就職観や将来の自分探しに何か影響を及ぼしましたか？

(桑垣) UCRに参加する前からよく耳にはしていたけど、やっぱりアメリカの薬剤師さんって、「ホント信頼されている職業人だな」って……。私も将来、そんな薬剤師さんになりたいなって思いました。

(瀬本) どうすれば信頼されるのかなあ～。向こうでは生活者が、病院に行くよりもまず最初に薬剤師さんに相談したりするでしょ？ 日本では皆保険制度があるから、安心してみんな病院に行っちゃうから。制度上、日本とアメリカでは生活者から見た医療従事者の「位置や序列」が違っているから、「アメリカの薬剤師さんみたい」って願望は、ちょっと根本的な「質」が違うのかな？って思ってるんだ。

(吉村) でも、そうだとすれば……私たちは、「何」ができれば、もっと患者さんに信頼されるようになるのかなあ～？

(森) 結局は、もっと患者さんと触れ合う時間を増

やすしかないのかな？ 今の医療の仕組みとどうかサービスの仕組みの上に胡坐をかいていても、何も変わらないと思う。もっと自らの足で、苦労しないと……。例えば、地域の民生委員さんなんかと一緒に活動すれば独居老人の健康確認と医療を融合することができるだろうし、在宅医療をもっと変えることができるんじゃないかな？って考えてる。

(瀬本) そうだね。もっと住民や生活する地域の要望に応えるサービスを展開していかないとダメだね！ ニーズに応えるって言葉でいうのは簡単だけど、やっぱりその地域で一緒に生活し、時には自治活動なんかに積極的に参加して……薬局の中だけに留まるのではなくて、自分たちで「外」に出て行かなきゃ、何も見えないのかもしれないよ。

(桑垣) あと、地域生活者との距離感かな？ 最近病院のドクターも患者さんにすごく優しいというか、患者の声に耳を傾けてくれていると思う。でも薬剤師さんは、なんか機械的っていうのか……ボランティア精神とか思いやりが足りないのかな？ たまたま私が通ってるところだけなのかもしれないけど。

(森) 薬剤師でもない僕らが、ずいぶんと偉そうに話してるけど……。でも、将来は僕たち自身がいろいろと考えて、動ける薬剤師にならなきゃいけないんだよ！

(瀬本) ホント、UCRへの参加はいろいろと考えさせられる経験だった……。そして、ちょっと忘れかけていたけど、今回みんなと話せて、いろいろ思い出させてもらって、ありがたかった。

(吉村) 向こうで出会えた方々にも感謝だね！ 私は今でもホストファミリーとメールで連絡してるんだ。もっといろんなことにチャレンジして、「いい報告」ができるように、頑張らなきゃ！

(森) あっ、僕もホストファミリーと連絡してるよ！

(瀬本) 私も今度連絡してみようかなあ～？ 英語はその後も勉強して、TOEICのスコアはUCR前より100くらい上がってるんだ(笑)

(森) え、ホント？ すごい！ お互いこれから多刺激を与えられる存在でいられるように頑張りよう！

(桑垣) 10年後は、今度は薬剤師としてまたみんなとこんな話ができればいいな(笑)



吉村 美菜(4年)  
県立水戸第三高校出身(茨城県)



桑垣 佳奈(3年)  
県立長生高校出身(千葉県)



森 安大(3年)  
県立杉戸高校出身(埼玉県)



瀬本 麻美(3年)  
県立船橋東高校出身(千葉県)



## 「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。

### IPE: 多職種連携教育

## 「摂食・嚥下障害を考える」「ケアプログラム創作ワークショップ」

高齢者医療サービス論演習(3年必修)は、チーム医療論(看護学部)と一部共催でIPEを実施しています。管理栄養士の講義(6月13日)の中では、「摂食・嚥下障害体験」が行われました。体験を通し、嚥下困難な状態で介助を受ける人の心理、介助の際に必要な配慮を考えるきっかけになりました。

6月の土曜二日間で行われた「ケアプログラム創作ワークショップ(2-4年自由選択)」では福看薬三学部生が集い、対象者の人生を創作し、その人に合ったケアを提案しました。授業時間外にも活発な討論を行って、各チームともに素晴らしい発表をしました。



摂食・嚥下障害を考える



ケアプログラム創作ワークショップ

IPEの目標は、「対象の理解」と「専門職の理解」です。不自由体験や生活背景創作を経験し、学生は「対象への配慮」という点で成長しました。また、他学部学生との対話を通し、「専門の違いによる視点の違い」と「対象を複数の視点からみる重要性」を実感しました。新時代のチームケアに資する薬剤師を育成するため、今後もIPEを積極的に展開していきます。



## 米国薬学研修 UCR2014

### 城西国際大学・城西大学 合同研修報告会

6月21日(土)東京・紀尾井町キャンパスにて、城西国際大学と城西大学薬学部の合同研究報告会を実施しました。両大学は今年2~3月に米国カルフォルニア大学リバーサイド校(UCR)でそれぞれ2週間の海外研修を行いました。異国の地でクスリを通して出会った人々、また日本との文化・価値観の違い。両薬大生一人ひとりが、海外研修での学びを振り返り英語で発表しました。彼らの姿からは国際人としての自覚が芽生え始めていることを感じとれました。



2015年度生 募集 大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

城西国際大学 入試・広報センター TEL: 0475-55-8855 E-mail: [admis@jiu.ac.jp](mailto:admis@jiu.ac.jp) <http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>